



新年ご挨拶

会長 大内 一男

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはお元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は区切りの平成30年。平成の御代もあと一年と四ヶ月となります。生前退位は憲政史上では初めて、江戸時代の光格天皇以来とのことです。また光格帝は仁孝、孝明、明治、大正、昭和、平成天皇と現在につながる直系の祖とされています。

平成の年号の意味「内平らかにして外成る」(史記)、また「地平らかにして天成る」(書経)が文字通り貫徹され、今年が安寧な年となる事をお祈りしたいと思います。

さて東村山稲門会はその目的として会員相互の親睦と研鑽をはかり、あわせて母校早稲田大学の発展および東村山市の文化向上に寄与するとあります。そのため同好会の世話人、ニュース編集、ポストパーソン、会議室手当、市民雑学講座、会計、お誕生会、新年会、お花見会、納涼会さらに会員増強運動と様々な分野にわたる仕事を会員の皆様で分担し引き継がれています。礎を築いていただいた諸先輩のご努力に敬意を捧げるとともに改めて皆さまの日頃のご協力に深く感謝する次第です。

昨年12月市民雑学講座は第100回を迎える事ができました。記念すべき講座にお招きしたドリアン助川氏は、ある切っ掛けで(詳しくは本誌戸田さんのレポートをご覧ください)生まれてきた意味を問いたいと星に誓ったそうです。そしてこの世に単独で存在し得るものはない。全ては関係性の中にあるという境地にたどり着いたといひます。他者に支えられると同時に他者を支えるという仕方でのみ人間は生きられるというのが私の理解です。多分東村山稲門会の伝統も会員の皆様による支え支えられの中で培われてきたものと思います。他者から必要とされるとき人は輝きます、課題を抱えたときの他者からの助けは人に勇気を与えます。それらの積み重ねが今の会を形作っているのでしょう。関係性を実感するため、どうぞ会の催しに積極的に参加してみてください。そして語りあい、遊び、学び、飲みそして少しだけ会の為に仕事も！きっと充実した毎日が訪れます。

今年も皆様にとって良い年となりますよう祈念し、併せて一層のご支援ご協力賜りますよう宜しく願い申し上げます。

第100回記念 市民雑学講座 報告

日時：2017年12月10日(日) 15:30~17:30

会場：サンパルネ・コンベンションホール

講師：ドリアン助川氏 早稲田大学校友 作家 音楽道化師

「それでも人生は美しい 小説「あん」に込めた思い」

わが母校早稲田は、校歌「都の西北」にもあるように多彩な人が集まる心ふるさとである。東村山稲門会にも、早稲田に学び、社会に出て、様々な経験や実績を残した校友が集まっている。知識や文化を市民に還元することも稲門会の目的という位置づけからスタートした市民雑学講座が100回を迎えた。そして100回記念の節目にふさわしい講師を迎えることができた。東村山市を舞台にした映画「あん」の原作者・ドリアン助川さんである。

助川さんは、大学卒業後、学習塾の教師、雑誌ライター、放送作家、詩人、ミュージシャン、道化師と多彩な顔を持つマルチ人間であり、浮き沈みの激しい波乱万丈の人生を送りました。

小説「あん」を書いた理由や映画「あん」で問いかけた「生きる意味」とは何かを中心に熱く語ってくれた。

講演は、生まれながらの色覚異常のため就職の道が閉ざされ、「一人で生きていくしかない」と自らの生い立ちから様々な職業についてきたことからスタートした。

(次ページへ続く)



深夜番組の人生相談の仕事をしたときに、「社会の役に立つために生きるものであって、人のためにならなければ生きていく意味がない」と問われ、ショックを受けた。病気が治っていても終生隔離され続けたハンセン病の元患者さんたちの気持ちを考えた時、そうした一見立派な言葉だけでは判断できない世界があると気付いたからだ。

そして、2009年の所沢市のライブのときに、多摩全生園の元患者との出会いがあった。中学生の時に発症して鹿児島県内で隔離されたその人は、岡山県の療養所内にできた高校に入る際、客車ではなく、貨車に乗せられて運ばれたという。その後全生園に移り、8人の雑居部屋に入れられた。この時に言葉遣いや生活習慣を教えてくれたのが製菓部の老人だった。「製菓部」は患者さんの誕生日や盆と正月に甘いものをつくっていた。助川さんはその頃、パティシエの小説を書こうと製菓学校に通っていて、アンコも作っていた。その人と会うことで差別の歴史を知り、最終的にはハンセン病も関係なく、人間って、生きている意味って何なんだと問いかける小説を書こうと決意した。そして、「あん」という小説を書き始めて3年がかかる。その間11回も書き直した。2013年に単行本として出版され、中島京子さんや角田光代さんが書評を書いてくださり、河瀬直美さん監督で映画化された。カンヌ国際映画祭のオープニング作品にも選ばれ脚光を浴びて、小説「あん」は各国語に翻訳された。国際的な反響の広がりや感動を与えているのは、人の命とは何かという普遍的なところで、物語のなかで徳江さんの手紙に託した「生きることの意味」が国境を超えたと、助川さんは語る。

最後に、小説「あん」の中の吉井徳江さんの千太郎さんへの手紙を朗読して終わった。

「・・・この病気になり、もう二度と世間には出られないとわかってから、なりたいものへの夢を持つようになって、困りました。(略)しかしやはり本音を言うと、私は垣根の外に出たかったのです。世間に出て、そこできちんと働いてみたかったのです。誰もが口にするように、世のため人のために働いてみたかったのです。(略)それがいつどういいうきっかけで変わったのか。はっきり覚えているのは、園の森を一人で歩きながら、煌々と光る満月を見ているときでした。もう、木々のざわめきや虫や鳥に対して、「聞く」ことを始めていた頃です。私はあの森の道で、本当にただ一人で月と向かい合っていたのです。何と美しい月だろうと思いました。自分が厄介な病気と闘っていることや、囲いのなかから出られないということもそのときは忘れていたのです。

すると、月が私に向かってそっとささやいてくれたように思えたのです。

お前に、見て欲しかったんだよ。

だから光っていたんだよ、って。

その時から、私にはあらゆるものが違って見えるようになりました。私がいなければ、この満月はなかった。木々もなかった。風もなかった。・・・」 (全文は小説「あん」をお読みください)

来場者は、201(会員:45、市民:156)名と、100回記念にふさわしく過去最高でした。



(野中 昭夫、大内 一男 写真 戸田 志郎 記 富澤 文雄 編集)

会員出席者 以下45名(敬称略)

青山、秋山、阿部、安藤、伊井、石井(真)、石井(光)、出田、伊吹、江藤、大内、岡田、加藤、倉田、紅松(容)、黒田、小菅、小林(裕)、高瀬、高橋(鶴)、高橋(正)、高柳、滝川(桜)、滝来(京)、田島、太刀岡、當間、戸田、富澤、中村(靖)、南湖、野村(茂)、波多野、馬場、藤井、町田(和)、三宅、森本、山本(岩)、吉田(勝)、田島夫人、當間夫人、富澤夫人、黒田夫人、野村夫人

会からのお知らせ

○平成30年2月定例役員会

日時 平成30年2月10日(土) 14:00~16:30

場所 市民センター 2階

○第3回東村山三田会講演会のご案内

日時:2018年1月20日(土) 14:30~16:30 費用:無料

講師:工学院大学教授 久保 嘉章氏 会場:サンパルネ・コンベンションホール

演題:首都直下地震の被害想定と過去の震災に学ぶ地震予防対策

○ 平成29年度年会費納入のお願い

昨年11月11日開催の第22回総会で平成29年度の予算や活動計画が承認され、今年度の稲門会活動が本格的にスタートしました。

つきましては、平成29年度（平成29年11月～30年10月）の年会費5,000円を、下記いずれかの方法で1月31日までにお振込みいただきますようお願い致します。

- ① 郵便振替口座 番号 00160—0—112250 名義 東村山稲門会
同封しました専用の振込取扱票をご利用ください。
- ② みずほ銀行久米川支店 普通預金口座 1876557 名義 早稲田大学東村山稲門会
*なお、11月の総会に出席された会員の皆様には、会場にて納入いただいております

12月の誕生会を16名の稲門仲間と祝い合いました

今年度最後となるお誕生会は10、11、12月生まれの方が対象で、12月22日（金）午後5時からお誕生者7名、お祝いをする仲間が9名参加して定例会場の丸藤で開かれました。

開会挨拶の大内会長からお誕生者への祝辞と日本で誕生祝いが慣習化されて今日に至った歴史譚が紹介されました。山本副会長の誕生者の祝福と人生100年時代を迎えた参会者の健勝を祈念する乾杯発声により和やかな祝宴懇談に移りました。

10月、11月、12月の誕生順で、それぞれのお誕生者から近況活動や今後の抱負が述べられました。

『上町弓子さん』は、謝辞と「来年もよろしくお祈りします」と挨拶をされて、市議会の会義出席のため祝い席を温める暇もなく恐縮されながら中座されました。

『滝来京子さん』はテニス同好会の年一回の恒例の10月合宿で、参加の10名から誕生祝福を受け、今回は二度目の誕生祝い席。所属する「朗読の会」で活動中。年6回開催した一部の朗読会の木戸銭を義援金として震災被災地の岩手・釜石に送っている由。毎週テニスコートに立ち、朗読の会や稲門会の諸活動にも専念。毎日好きな世界に参加継続できるのはご主人の家庭内業務の絶大な支援に因るものとの謙虚な話に、共感の拍手がありました。

『坂本英夫さん』は8月に杉並区・上井草に転居されたことを紹介。当初は杉並稲門会加入を一考したが、今後も魅力ある東村山稲門会の会員継続を決意。上井草から向ういて来て各種の活動に参加・交流したいとの由。アサヒビールを愛飲し、風を引いてもアサヒビールは止められないとの弁に満場の拍手がありました。

『藤澤博恭さん』は、今年の世界ラン大会・東洋ランの部で入賞授賞、2000 鉢を有するラン類植物の世話が大きな生き甲斐。好きなビールを時にはジョッキ5杯を飲む。短命の両親を若くして看取ったことで、60歳には遺言書を作成、墓地までも取得されたことを述懐。残された人生を充実した最高の生き方をするのが目標と強い信念と抱負を語られました。

『一色泰久さん』は今年描かれた油絵の中から2点「ラフランスと秋草」、「佐島ヶ丘からの眺め」をポストカードにして参会者全員に贈られました。25回を数える個展が平成30年6月24日～6月30日に、東京交通会館・地下のギャラリー「玻璃」で開催される由。「今日、22日が誕生日」。好きなことは親しい仲間と楽しく飲むことと言で、参会者一同から拍手喝采がありました。

『小森敏孝さん』が語るに、「稲門会では中間年齢層だが、英語教職で勤務されている高校では高齢層組に入る」との由。教鞭に立ち最初に指導した教え子も来年は還暦を迎える年に。教え子達との酒を飲む機会が年毎に増え、彼らから元気を得ているとのこと。定年を迎える来春から「のんびり生活」を予定するも、校長の「非常勤職での継続勤務の強い要請」に目下思案中の言に、藤澤先輩の「働けられるなら、続けて働くことが一番」の激が飛び、「考え直します」との即答がありました。

『長野長正さん』は今回の誕生者の最高齢者。稲門会バス旅行の車中で披露する「行先地に見る著名歴史上人物とその功績」なる独自の歴史語りに、同乗者は傾きながらの拝聴が常。早口での歴史語りに反省しているとの本人の弁がありました。立川と東大和の両稲門会にも籍を置き、稲酔会の代表者にあることも紹介されました。

時間がありましたので、後半にはお祝いに参加した9人も近況などを紹介し、親睦を深めることができました。東村山稲門会の歌に続く校歌斉唱はリード役を小森さんに担っていただき、参加者総立ちの円陣をつくり、時には拳を振り上げて声高らかに歌いました。19時過ぎに誕生祝い品が配られ、お誕生会幹事の紅松容子さんから閉会挨拶があり、歳末の一夜のお誕生会の名残を惜しみながら三々五々に散会しました。

お祝いを受けた方（敬称略）：7名
滝来（京）、上町、坂本、藤澤、一色、小森、長野
お祝いした仲間：9名
井垣、大内、紅松（容）、黒田、小菅、滝川（桜）
野中、山本（岩）、岡田
（岡田 一郎 記、野中 昭夫 写真）



同好会だより

当会会員及びご家族の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

グローバルサロン英語の会

世話人：滝川 正義 TEL 042-394-8187
小亀 輝雄・黒田 祐司・山本 岩男



12月13日(水) 市民センター会議室で、第43回の会を開催しました。

1. **世界の街めぐり** 担当 滝川(正)
「バルセロナ」 真面目で勤勉な人々、港町、闘牛が人気のない街。奇オガウデイが1883年着工したサグラダファミリア：聖家族教会は、1883年に着工、今ミナレットが8本建っているが、更に10本建てて完成するとか。100年後も未完成では。
2. **Listening** Voice of America の教材を使用しました。担当 山本
What to Do with Radioactive Water from Fukushima
英文を見ながら、ゆっくり読まれている英語を聞き、英文解釈しました。
3. **Singing** 担当 高橋(文)
① Just walking in the rain : 雨に歩けば / Johnnie Ray ② White Christmas : ホワイトクリスマス / Bing Crosby
4. **Guest Speaker** 加藤 正俊氏
演題 「トランプさんが大統領になった隠れた理由」 トランプ氏が大方の予想に反し何故大統領になれたのか。加藤さんは、一般のマスコミが述べていない別の観点から説明しました。オバマ前大統領は、公共機関でのメリークリスマスを廃止したが、トランプ氏は、アメリカで約80%を占めるキリスト教徒を味方に付ける政策を打ち出し呼び掛けた。日本ではほとんど報道されていませんが、政治経験のある加藤さんならではの独特な見方を述べられました。
5. **Us Season Events** (米国歳時記) 15 担当 黒田
12月 Pearl Harbor Day 真珠湾の日 1941年12月7日大日本帝国は、宣戦布告なしにハワイの真珠湾を攻撃しました。パールハーバーデーは真珠湾記憶の日として祝われております。フランクリンルーズベルト大統領は、真珠湾攻撃の次の日に議会で演説し、米国人は正義の力で絶対的勝利を収めると宣言し、同時に大日本帝国に宣戦布告しました。

参加者10名(敬称略) 倉田、吉澤(勇)、滝川(桜)、高橋(文)、守屋、宮元、加藤、黒田、滝川(正)、山本(岩)

次回は、平成30年1月17日(水) 市民センター 14:00~16:30 で開催します。

ゲストスピーカー 東村山郷土史研究会会長 大井 芳文氏 演題「東村山の歴史」

書道同好会

世話人：大森 平八郎
TEL 042-391-0535



11月30日第16回参加者4名(敬称略)
田代、三宅、宮元夫人、大森

今回は風邪等やむを得ない事情から参加者が4人となりました。

前回記載のとおり今回は九成宮醜泉銘の臨書で「者、歩、月、屋、史、大」「随、遠、足、従、飲、養」の各六文字から左、右のハライを練習。12月も同じ手本を用いて九成宮の臨書で今年を締め括ります。

気楽な会です。ご参加をお待ちしております。

○開催日：毎月月末

但し、公民館は月曜日が休館の為、
月末が月曜日の時は前日(日曜日)

○開催時間：午後3時40分~5時

○開催場所：萩山公民館

住所 萩山町2-13-1 TEL 042-393-3170

第18回開催日：1月31日(水)

第19回開催日：2月28日(水)

囲碁同好会

世話人：福田 晃
TEL 042-394-0593
高橋 鶴次郎
TEL 042-391-6318



今や囲碁界では、井山裕太棋聖の2度の
七冠、将棋界では、羽生善治竜王の永世

七冠獲得、前人未踏の偉業を達成されました。

さて、読売新聞12月6日の朝刊に「将棋」に関する記事が掲載されていました。囲碁にも共通する事項ですので参考までにまとめてみました。

「菊池寛は将棋にも通じていて、『将棋』と題する随筆に心得として、

- ・怒ってはいけな
- ・ひるんではいけな
- ・あせってはいけな
- ・あんまり勝たんとしてはいけな
- ・自分の棋力だけのものは、必ず現すと言う覚悟で、悠々として盤面に向うべきである。

<読売新聞、12/6(水)編集手帳より>

12月23日(土)の例会 参加者6名(敬称略、順不同)

江藤、潮田、中川、田島、一色、福田

今回は江藤さんが全勝で好調でした。(福田 晃 記)

俳句同好会 (稲酔会)

世話人：井垣 和太 TEL 04-2924-2934



第 95 回「稲酔」俳句会は、12 月 15 日 (金) 13:00~久米川駅傍「丸藤」2 階で忘年会を兼ねて開催いたしました。

句会の出席者は、栗島三郎、井垣稲雀、出田麦穂、風間青葉、菊田一平、黒田柿黒、高部糸行、波多野敏治、山口泰山の 9 名と大盛況。投句参加は、兵庫県在住の八木竜湖。時間遅れの出句となった山下波雲を加えて 11 名となりました。

兼題は「年の暮」。年末関連の森羅万象を捉えた力作がずらりと並びました。各人が 7 句ずつ選び、一番良いと思った句に◎印を付けるという形式での「互選」の結果

献杯の黙に始まる年忘れ 一平

が、最高点句になりました。句会後の忘年会も鍋を囲んでの 2 時間以上のにぎわいでした。

次回第 96 回「稲酔」俳句会は、17 年目に入る 2 月 17 日 (土) 午後 2 時から、「丸藤」二階で開催いたします。兼題は「梅」(花の兄、春告げ草、梅が香、夜の梅、梅林、etc) です。
(稲雀 記)

麻雀同好会

世話人：阿部 茂 TEL 042-332-0298



12 月 17 日、第 78 回麻雀大会が開催されました。

ニューフェイス安藤利雄さんを交えての 8 名、2 卓での激戦。なんと、バカツキの阿部が久々に優勝させていただきました。一年分のツキが一気に押し寄せてきたようで、次回以降が不安になってきています。(前回は定位置の BB でしたので)

その後、「さがみ」にて忘年会を行いました。皆さん、次回に向けて闘志を蓄えているようでした。

参加者：阿部、安藤、佐々木、田口、土橋、當間、町田、松永 (8 名)

第 3 回早慶麻雀対抗戦

日時 H30 年 1 月 28 日 (予定)

2 連敗しているので、雪辱を期しています。

第 7 回 6 地区対抗麻雀大会

日時 H30 年 2 月 18 日 (予定)

チーム成績も上向き傾向なので上位入賞を狙います。

テニス同好会

世話人：野村 茂樹 TEL 042-393-7036

吉田 劭文 TEL 042-397-3293



12 月も半ばから急に寒くなり始めた。まだ朝の 6 時半過ぎまでは暗い状況である。

サラリーマン後半 10 年くらいは、暗いうちに家を出て久米川駅から 5 時 45 分頃の電車に乗って、新宿西口のロッテリアに開店と同時に入店し、コーヒーを飲みながら仕事の手順や会議のシナリオなど考えたり、旅行のプランを練ったり、凡そ 1 時間半を自分の時間としてゆっくり過ごせた事が懐かしい。私達世話人 (野村/吉田劭文) は、前任の田島さんから

引き継いでから 3 年が経ち、稲門会 20 周年記念事業の実施、毎年の合宿の実施、毎月のコート抽選日の決定などを協同して行い、メンバーの協力を得つつ、4 年目に突入している。最近、暇に任せて読んでいるテニスの技術書によると、著者が自分の大学のテニス部員に毎年「目標設定用紙」に記入してもらっている項目が三つあるとのこと。

①テニスプレイヤーとしての目標 ②技術目標 ③自分が目指すゲームプラン。これは良い事だと思ひ、只今自問自答の最中である。本テニス同好会も「漫然と練習して、試合をし、怪我なく終了」で良いのか? そろそろ、会としての目標を立てる時期に来ているのではないかと考える。

月日	時間	人数	参加者 (敬称略)	場所：運動公園テニスコート、一部は柳泉園テニスコート
11/22	2	6	黒田、関、田島、宮元、山口 (修)、吉田 (劭)	
11/29	4	7	市川 (晴)、黒田、滝来 (京)、野村、宮元、山口 (修)、吉田 (劭)	
12/ 8	4	8	黒田、滝来 (京)、田島、當間、野村、町田晴美 (和夫夫人)、宮元、吉田 (劭)	
12/13	4	7	石塚、滝来 (京)、田島、當間、野村、宮元、吉田 (劭)	
12/20	4	7	石塚、黒田、田島、野村、町田晴美、宮元、吉田 (劭)	

***女性新入会員誕生** 本会幹事の町田和夫氏夫人・町田晴美さんが入会されました。

12 月 8 日の例会に参加され、ダブルス戦で堅実なプレーを披露されました。男性会員の頬が緩んだ例会日となりました。

ウォーキングの会

世話人：高橋 正夫 TEL 042-309-3407



「まぐろ切符で三崎港へ」

11月17日(金)東村山駅より出発し、品川駅でまぐろ切符を購入。京浜急行の電車賃・バス代・まぐろの昼食・お土産品がセットになっている便利なもので、2016年の販売数が157,000枚を記録している人気商品で、その優れた企画力により、三浦海岸一帯の活性化に大きく寄与しています。一行15名は三崎港から渡船で城ヶ島に渡り、最初にまぐろ定食を賞味しましたが、本まぐろや頬肉が特に美味と、好評でした。食事後、相模湾を望む城ヶ島灯台からの展望を楽しんだ後、岩場の続くシーサイドコースを辿り、馬の背洞門などを見ながら、およそ1時間ほど歩きました。その後、城ヶ島公園からはバスで城ヶ島大橋を渡って、三浦港に戻り、お土産券と共に海産物のショッピングを楽しんだ後、帰路につきましたが、天候にも恵まれ、充実した一日となりました。



参加者 15名(敬称略)：
青山、市川夫人、大内、倉田、清水、高橋夫妻、當間
戸田、富澤夫妻、堀田、町田、守屋、吉澤勇

女子会

世話人：滝川 桜子 TEL 042-394-8187

ガスミュージアム見学と本場フレンチを堪能

11月30日(木)、ガスミュージアム見学とフレンチレストランでの昼食の第5回女子会を開催しました。9時半に久米川駅南口に集合。参加者7名は車2台に分乗し、いざ出発。まず横浜、ロンドン、パリなど、各国のガス灯が17基灯るレトロ感満載のガスライトガーデンへ。ハンフリー・ボガードやジャン・ギャバンが現れてきそう。それからガス灯館へ行き、明治錦絵展を鑑賞し、くらし館へ。ここには明治時代からのガス器具が展示されており、昭和40年代のガス自動炊飯器など”これうちにあった!”と懐かしさ一杯でした。くらし館では学芸員の方の解説付きで現代までのガス器具の変遷がよくわかりました。そのあとフレンチレストランへ。ここから上(素)さんも参加してくださり、ワイワイお喋りしながらいただきました。カベルネのワインを一本注文し、8名で仲良く分け(すみません。私だけ2杯でした)。いい気分。近況報告や趣味の話などして3時に解散。皆さんと楽しく、美味しい時間を共有でき大満足でした。



参加者：8名(敬称略) 上(素)、上町、崎山、高瀬、高橋(文)、滝川(桜)、當麻、吉澤(雅)
(當麻 光子 記)

パソコン同好会

世話人：小菅 宏 TEL 042-391-0219
福田 昇七 TEL 090-9374-8944



Aクラス ・2018年の年賀状を作成しました。ページ設定から始め、賀詞はワードアートで作成。本文、差出人住所はテキストボックスで作成しました。年賀状を飾る画像を挿入した後綺麗に見せるために編集し、完成。印刷して皆さんで鑑賞しました。それぞれ個性的で素晴らしい作品になりました。良い年が迎えられそうです。

Bクラス ・メールソフト ライブメールがサポートされなくなり OUTLOOK を使う人が多くなっています。OUTLOOKでのメールの基本を一緒に勉強しました。・OUTLOOKで「添付ファイルが届かない」現象の原因と対策として極力「テキスト形式」で送信することにしました。・今のパソコンの状態を別のパソコンに構成したいとの要望もありましたが、別途に機会があったらとしました。・それぞれのブログを作ることに挑戦する方向で準備することが決まりました。ご興味のある方、パソコンでお困りの方、パソコンを始める方の見学大歓迎です。

参加者 敬称略 下記の他にシルバー人材センターの講師2名がおります。
12月2日(土)：Aクラス 三宅、森本、一色、小菅夫人
Bクラス 福田(昇)、滝来(京)、藤井、小菅(講師)
12月16日(土)：Aクラス 三宅、森本、一色、月森夫人、小菅夫人
Bクラス 山本、吉田(劭)、福田(昇)、當間、藤井、小菅(講師)

早稲田スポーツを応援する会

世話人 富澤 文雄 TEL 080-5086-8461
 大内 一男 TEL 090-4836-5886
 小亀 輝雄 TEL 042-394-6951

ラグビー早慶戦・早明戦観戦記

秩父宮ラグビー場で開催された、関東大学対抗戦グループの早慶戦（11月23日）・早明戦（12月3日）に、妻と稲門会の仲間と共に応援に出かけました。両日ともに、素晴らしい秋晴れの中、白熱した試合が展開され、おのずと応援にも力が入りました。



早慶戦は、序盤から慶応ペースで進み、一時は9対21とリードされ、重苦しいムードに包まれましたが、後半28分から驚異の連続トライで23対21と、昨年同様、逆転で勝利しました。あとの懇親会で勝利の美酒に酔ったのは言うまでもありません。

早明戦は、試合開始直後に、甘いパスを明治にカットされそのまま先制トライを許したのが痛かったですが、もう少しで追いつくチャンスを活かさず、19対29で負けました。

その結果、対抗戦グループの順位は1位7戦全勝の帝京大、2位明大、3位慶大、4位早大、5位筑波大、6位日体大、7位青学大、8位成蹊大となりました。早・慶・明はいずれも5勝2敗なのですが、得失点差で早稲田は4位となりました。春先に比べると確実に力が向上しており、今後の活躍が楽しみです。

観戦者(両戦共)：伊吹、大内、高橋(正)、富澤、守屋、滝来(京)、滝来(洋) (滝来 洋二 記)

音楽同好会

世話人：市川 彰彦 TEL 042-308-8181
 高橋 文子 TEL 042-449-5018



12月6日(水)本年最後の例会は萩山公民館で13時半から開催しました。当日は萩山町付き合いのある方より音楽会に出席したいとの希望もあり2人に話していましたが、友達を連れてきたため4人になりました。また私の妹(高松倫子)が我が家に遊びに来ていたので出席し、オペラのアリアとアイルランド民謡2曲歌いました。

曲目は次の通りです。東村山稲門会の歌、ホワイト・クリスマス、冬景色、冬の夜、スキー、トロイカ、歓喜の歌、銀色の道、など。高橋恵子さんの二胡の独奏で荒城の月、冬景色。吉澤雅子さんのオカリナで雪の降る街。滝川桜子さんのハーモニカ独奏で北上夜曲、浜辺の歌。高松倫子は独唱で「私のお父さん、庭の千草」を披露しました。また重原真知子さんは、歓喜の歌のドイツ語の歌詞を読んで頂きました。その他の演奏も行いました。

参加者 23名(敬称略) 守屋、倉田、宮元、宮元夫人、山本(岩)、高橋(正)、高橋(正)夫人、滝川(桜) 崎山、吉澤(勇)、吉澤(雅)、高橋(文)、市川(彰)、市川(彰)夫人、小菅、重原、岡田、高橋(英)夫人 (市川さんの妹)高松倫子、(市川さん友人)樋口、兼子、目黒、山口
 2018年3月初旬例会を開きます。春の歌を歌いませんか。(市川 彰彦 記)

園芸の会

世話人：當間 昭治 TEL 042-391-6023



園芸の会の新年スタートの例会は、恒例になりました「さくら草サギ草の球根の交換会」です。とは言っても、生育の悪さから年を追うごとにその交換が困難になってきました。前回の例会で参加者の皆さんと相談し、サギ草については新たに球根を購入し、心機一転それを一斉に各自が育ててその成果を競うこととしました。サギ草の球根は会のリーダーの藤澤さんにお問い合わせして用意します。これを下記例会時に参加者の皆様にお渡しします。又、さくら草の球根については、持参いただける方は是非お願いします。

さくら草サギ草に興味のある会員の皆様、植え付けの説明もいたします。新たなメンバーを歓迎します。是非ご参加ください。

さくら草サギ草の球根の交換会

日時 2月7日(水) 14:00~16:00
 場所 市民センター 第3会議室(今回第5会議室から変更)

(當間 昭治 記)

同好会等 短期予定表												
同好会・行事	1月					2月					世話人 (問合せ先)	
	日	曜	時間	場所	備考	日	曜	時間	場所	備考		
ウォーキングの会	10	水	9:00~14:00	東村山駅上りホーム		—	—	—	—		富澤	042-394-4292
郷土史の会	—	—	—	—		*	*	*	*		阿部	042-332-0298
テニス同好会	12	金	9:00~13:00	運動公園コートBD		2	金	11:00~13:00	運動公園コートCB		野村(茂)	042-393-7036
	17	水	11:00~15:00	運動公園コートC		14	水	9:00~11:00	運動公園コートA			
	21	日	11:00~13:00	運動公園コートC		18	日	9:00~13:00	運動公園コートC			
	24	水	13:00~16:00	運動公園コートC他		28	水	9:00~11:00	運動公園コートA			
囲碁同好会	—	—	—	—		—	—	—	—		福田晃	042-394-0593
カラオケ同好会	13	土	18:00~21:00	ビッグエコー東村山店		10	土	18:00~21:00	ビッグエコー東村山店		南湖	042-390-2287
	—	—	—	—		15	木	13:30~	ビッグエコー東村山店			
園芸の会	—	—	—	—		11	水	14:00~16:00	市民センター第3会議室		當間	042-391-6023
麻雀同好会	—	—	—	—		—	—	—	—		阿部	042-332-0298
音楽同好会	—	—	—	—		—	—	—	—		市川(彰)	042-308-8181
俳句同好会	—	—	—	—		17	土	14:00~	「丸藤」2階		井垣	04-2924-2934
ゴルフ同好会	—	—	—	—		—	—	—	—		紅松喬	042-393-6924
グローバルサロン 英語の会	17	水	14:00~16:30	市民センター		14	水	14:00~16:30	市民センター		滝川(正)	042-394-8187
女子会	—	—	—	—		—	—	—	—		滝川(桜)	042-394-8187
早稲田スポーツを 応援する会	—	—	—	—		—	—	—	—		富澤	042-394-4292
書道同好会	31	水	15:40~17:00	萩山公民館		28	水	15:40~17:00	萩山公民館		大森	042-391-0535
パソコン同好会	6	土	13:00~15:00	シルバー人材センター	勉強会	3	土	13:00~15:00	シルバー人材センター	勉強会	小菅	042-391-0219
	20	土	13:00~15:00	シルバー人材センター	勉強会	17	土	13:00~15:00	シルバー人材センター	勉強会		
雑学講座	—	—	—	—		—	—	—	—		黒田	042-397-6434

— : 対象月に開催予定無し * : ニュース編集時点で未定。詳細は世話人にお問い合わせ下さい。

編集後記



- 新年明けましておめでとうございます。昨年中は会員の皆様のご協力により、毎月東村山稲門会ニュースをお届けすることができ、新年1月に第250号を発行することができました。皆様のご協力に対し深く感謝申し上げます。
- 今年も稲門会ニュースは、「会員の皆様との絆を深める最も重要な媒体である」との原点を忘れずに、魅力ある紙面になるよう編集委員一同努力してまいりますので、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します。
- 今年の冬は、平年に比べて厳しく乾燥した日々が続いております。会員の皆様に於かれましては、健康に十分注意され、今年も積極的に稲門会活動に参加され、会の行事や同好会活動を楽しんでいただきますようお願い申し上げます。
(山本 岩男 記)
- 次号の原稿締め切りは、1月20(土)です。皆様の投稿をお待ちしています。
送付先 山本 岩男 FAX: 042-391-7976 E-mail: yamamoto.i@jcom.home.ne.jp

俳壇

青春の都の西北おでん酒
待つ日々は幸せの日々冬木の芽
波多野敏治

手みやげに大根三本押し車
御神渡り高速エリアより眺む
八木 竜湖

武蔵野や夜の星とおき虎落笛
京湯葉に南瓜二切れ冬至膳
山下 波雲

リハビリの軽き疲れや冬銀河
またひとつ病背負いて今年果つ
粟島 三郎

絶対の日矢胸に受く大旦おあむた
屠蘇の杯持て余し居る老夫婦
井垣 稲雀

月冴ゆる早稲田通りを下駄の音
もう歳だなどと言ふまい返り花
出田 麦穂

パチパチと爪切る音や年の暮
時刻む針の重さや年の暮
風間 青葉

大鍋に煮えて霜夜の肉豆腐
額縁・こたつ・椅子も刑務所作業品
菊田 一平

清々し庭師忙し年用意
車内では九割スマホ冬の雨
黒田 柿黒

雪折れの音で目覚める故郷の夜
年の暮れ拭いたガラスに映える雲
高部 糸行